

第2回 戦略的な水環境管理のあり方検討会

議事要旨

1. 日 時： 令和6年3月28日（木）15：00～17：00
2. 場 所： 公益財団法人 日本下水道新技術機構 会議室
3. 議論内容

○能動的運転管理の実施にあたり、窒素の上昇に応じてBODやCODが増加してしまうことが課題となっている。また、CODが環境基準である一方で計画放流水質の対象項目になっていないことや、海域の環境基準に無いBODが処理方式の選定のために計画放流水質の対象項目となることが、計画を作る上で矛盾と感ずる点である。

○処理水を直接海域に放流する場合、河川を経由する場合、放流の位置や水道水源との関係によっても放流水質の条件は異なる点を考慮する必要がある。また、放流水質による放流先の酸素消費量をどうコントロールしていくか、という考え方が重要である。

○酸素消費という観点では、有機物であろうとアンモニアであろうと酸素が消費されることには変わらないことを含めて、放流先での酸素消費量をどうコントロールするかを考えることが重要である。

○放流水質等の規制や考え方の見直しによって、海域の栄養塩類の問題、維持管理上の課題に対して便益が出るであろうことは理解できた。一方で、環境基準内での運用とはいえ、放流水質が生態系に与える影響など、目的以外の影響についても整理する必要がある。

○基準を守るために低めの管理値を持ちながら処理場の運転を行っている。能動的運転管理においてギリギリで上限を守るような運転管理を行うことは困難である。週平均の上限となれば運転管理しやすくなる。

○放流水のアンモニア濃度の管理は下水処理において重要であるが、一律ではなく、下水処理場と放流先、生態系への影響など、それぞれの状況から議論する必要がある。

○放流先の水域による違いも考えられるので、基準値を定める上では、実際に試行しながらアダプティブに運用していく必要がある。

○大腸菌数や難分解性のCODの指標、底層D₀の環境基準の達成に関する課題なども併せて議論することも考えられる。

以上